



住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らし、最後は病院ではなくひまわりの家で迎えられるよう、そんな願いを込めて「共生ホームひまわりの家」は開設されました。これまでに4人の方がひまわりの家で看取られ、それぞれ私たちに感動を与えてくれました。共生ホームひまわりの家は入居者とともに、家族とも協力して生活しています。今年2月になくなられた門脇清子さんの家族(長女)大崎澄子さんよりお手紙をいただきました。

ひまわりの家

お世話になった皆様へ
大崎澄子(長女)

5年間、お世話になりました。ありがとうございました。

ひまわりの家が建つ2年ほど前から、もうひとりで松原で生活するのは限界でした。

遠方に住んでいると、食事のこと、デイサービスのこと、昼間ひとりでどうしているのかとても心配になったものです。

思えば26才で結婚してから1年に5、6回程度しか家に帰らず、親のことは真剣に考えたことがなかったと思います。きつと寂しかったのではないかと...

私の母は幼い頃に母親を亡くし、母親の愛をあまり知らずに育ったせいもあり、親子の「コミュニケーション」の取り方はうまくいってはいませんでした。そのせいで、結婚して34年もの間、2人でショッピングや旅行に出かけた思い出はほとんどありません。

でした。ひまわりの家ができたときは本当に私は何て付いているの?」と思いました。

佃のどこかにアパートを借りて、別所(松原市)から引っ越しさせたいと思い悩んでいた矢先でした。昔から強運の私、ピンチがくると必ず助け船が現れます。入所したころは環境に慣れず、困ったこともありました。徐々になれ、アットホームでみなさんととても優しくしていただき、母は本等に幸せだったと思います。

私も仕事を続けることができ、母の介護を助けてもらえてとても感謝しています。前向きで明るい性格のせいもあり、みなさんにとってもかわいがっていただき、喜んでおります。

耳が遠く伝わりにくいところもありましたが、最後まで親切に愛をいっぱいくださり、ありがとうございました。

老健施設のような事務的なところではなく、本人も幸せだったと思

います。介護の大変さをつくづく感じますが、これからも私の母の

ようにたくさん声かけをしてあげてください。

幸せな入居者の方々がもったいないになりますよう祈ります。本当にありがとうございました。遠地さんを始めひまわりの家のスタッフの方々がみなさん幸せになりますように。

門脇さんの私に対する第1声は「アッロンのひも縦結びやで...」とにこにこ顔で声をかけてくださいました。なんと細かいことへの気づきができるお方だと感心したのが第1印象でした。ぬりえの色彩感覚も抜群で、とてもきれいでした。

小西厚子 スタッフ



終の日を 迎える準備とこのえり

心静かに その日を待たん

花好きの 我には嬉し新しへ

住む家の名は ひまわりの家

一枚の紙 折りゆけば一輪の

花にもなれば 折り紙楽し

ただひとり ひな祭りの唄いふやけは

寂しさ悲しさ あふれて涙

苦しくも 生きねばならぬこの命

亡母が身を捨て 下さりしもの

平成27年 春

山根和子





共生ホームひまわりの家
ひまわりまつり(第5回)
と2015年4月19日(日)AM11:00より
ところ 共生ホームひまわりの家

どんよりとした雲、時々雨のぱらつく中でひまわりまつりの朝を迎えました。
「今日のひまわりまつりはあるんですか」との問い合わせも。予定どおり開催する準備、実行委員会のメンバーが集まる頃には雨もやんで明るい空模様になりました。
模擬店にはテントも張られ準備は予定どおり進められ、バザーの開催時には明るい日差しに、「第5回ひまわりまつり」は無事に開催されました。



デイサービスの風景



木の温もりと太陽の光がいつぱい入るディールーム、家庭的なスイートホームの雰囲気大切に...
定員10名のゆったりと過ごしていただけるデイサービスです。
ご自宅で過ごされるような、落ち着いた空間があります。

今日は岸本敏江さん(お琴)と眞鍋則秋さん(尺八)のお二人の演奏会です。岸本さんは「第1回ひまわりまつり」でお琴の演奏をしていただきました。今回は新しく入居された山根和子さんのお孫さんが淀中学校で部活の講師をしている「教子」だったことの縁でボランティアに来ていただくことになりました。(岸本さんは今も淀中で講師をされています)眞鍋則秋さんは岸本さんと邦楽の研究会で活動されている都山流尺八楽会大師範です。



ひまわりの家の一員となつて

山根 和子(不居者)

私は昨年三月末、ひどい腰痛のため起き上がることも出来ない有様となりました。
今まで何度もなりましたが、今回はひどくて救急車で千船病院で受診、結果は年齢による筋力の現象からの痛みで痛み止めを飲み、安静にしているより他にやり様はないとのこと、入院も出来ず帰りました。
仕事にも行けない娘にこれ以上迷惑をかけられないと、無理は承知でケアマネジャーさんにホームに入りたいと頼みました。
その夜ケアマネジャーさんと我が家に来てくださったのがひまわりの家の遠地様でした。

ひまわりの家はひとりで生活する部屋は冷暖房、食事付き、入浴介助、月々の往診を受けることができ、至れり尽くせりで部屋にはトイレ、ミニキッチン一方はベランダで明るく太陽の光も差し込みますお話を聞いて病気をもち何もできない私がこんな好条件のところへの入所は無理と娘もお断りしていましたが、遠地様は「まあはない、いつでもお引き受けします」と言ってくれました。このような方と巡り合わせたのも亡き母が守ってくれたのだと思い、有難く好意に甘える決心をし、ひまわりの家の一員とならせていただきました。スタッフの皆様、入居者の皆様も暖かく迎えてくださいました。

いことと手をあわせたいだいています。私の命はどのくらい時間があるのかわかりませんが、皆様に甘えさせていただきつつ、心静かに「ひまわりの家」で終のを迎えたい命を大切に生きていきます。
スタッフの皆様、ボランティアでお力添えなさっている皆様、ご迷惑をかけると思いますが、これも病気のせいとお許し下さって、今後ともよろしくお願い申し上げます。
感謝の気持ちを伝えたいとペンをとりました。ありがとございました。私が長年作りためた手芸品を、かわいいと見てくださるのも嬉しいことです。

(平成26年12月入居)

